

## 2019年5月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。
- 需要項目ごとの動きにも、4月からの変更はありません。公共投資は下げ止まっており、観光は持ち直していますが、個人消費はやや弱めの動きとなっています。また、住宅投資は減少しています。
- 雇用面では、労働需給がタイトな状況が続いています。金融機関の貸出も前年を上回っています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4月も前年を下回りました。今年の土日祝日の休日数は前年と同数で、気温もほぼ平年並み（旭川市の平均気温で平年比▲0.1度）、降水日数はむしろ平年より少なく、旭川市の1日1mm以上の降水日数は平年比▲3.4日でした。それにもかかわらず前年割れとなった背景としては、GWの観光支出のため、その他の支出が多少引き締められた可能性も考えられます。
- 4月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽とも、前年をやや大きく上回り、合計でも2桁増となりました。年度末の3月を挟み、合計台数で3月は前年を1割近く下回り、4月は1割以上上回った形ですが、3、4月を均すと前年を2%弱下回るペースとなっています。

### ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、4月は5か

月連続で、すべての空港で前年を上回り、全体で6か月連続の前年比プラスとなりました。旭川空港の国際線でも、本年、前年ともチャーター便がなく、定期便のみの運行でしたが、前年を上回っています。

- ホテル・旅館宿泊客数は、4月、10か月振りに前年を上回りました。「北海道ふっこう割」は3月で終了しましたが、4月はGWの10連休の前半部分を含み、多くの観光地で順調に推移したようです。旭川市内のホテル客室稼働率でも、季節的には稼働率が低くなる時期ですが、前年を上回って推移しており、この時期としては上々の稼働率となりました。
- 各地観光施設の入込みは、4月、層雲峡地区で前年を下回りましたが、GWの10連休の影響もあり、旭山動物園や網走監獄で著増となったほか、ウトロ温泉や利尻・礼文フェリーも前年を大きく上回り、全体でも前年を3割程度上回る伸びとなりました。前年比増加は5か月連続です。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、4月、宗谷が前年を上回りましたが、上川、オホーツクで前年を下回り、全体で前年を下回りました。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、3月、持家は4か月連続、貸家は6か月振り、分譲は3か月振りとなる前年比増加で、全体でも2か月連続の前年比増加です。
- 四半期で括ると19/1～3月は、全体で前年を1割近く下回り、3期連続の前年割れでした。もっとも、この中で持家は2期連続の前年比プラスで、プラス幅も前年比3割増余りまで拡大しており、消費税率引上げ前の駆け込みを窺わせています。

## ■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、3月、上川が前月に続き前年比3倍を超える伸びとなったほか、宗谷も前年を大きく上回りましたが、オホーツクが前年を大幅に下回り、3 総合振興局合計では前年をやや下回る形になりました。もっとも、19/1～3月を括ると、前年比で6割を超える大幅な伸びとなり、2 期連続の前年比プラスとなっています。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。3月の有効求人倍率は、北見で前年を下回りましたが、旭川、稚内、網走で前年を上回るといった構図が続いています。この間、3月の新規求人数は、稚内を除き、旭川、北見、網走で前年を下回りました。

## ■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3 総合振興局管下における金融機関貸出残高は、4月、前月に続き、前年を上回りました。

## ■今後のポイント

- GWの10連休は、道北地域の観光に対してもプラスに寄与したようです。今後、その反動がやや心配されますが、夏場の観光シーズンに向けて、一段の盛り上がりを期待したいところです。
- このほか、今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントを整理すると、①予想される国土強靱化関連や災害復旧工事等の公共工事について、人手不足の問題を抱える建設業者が受注を増やしていけるかどうか、また、②日本全体の輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられる中での今年度設備投資の推移や、③秋に消費税率引き上げを控える中での消費動向について、注目していきたいと思えます。

以 上